

射量の強弱に

間
雲量 (0~4)
—
F
E
D
D

と二酸化窒素および二酸化窒素による

することにより

より変換す

その主な原

戻されるこ

とにより生ずる濃度のため

- 2) は握できなかった発生源（中小煙源、移動発生源等）により生ずる濃度のため
- 3) 汚染物質の長期間滞留または長距離移流中の汚染物質の変質により生ずる濃度のため
- 4) 自然界に元来生存する濃度のため
- 5) 測定法や測定位置等の測定により生ずる誤差のため

また、バックグラウンド濃度はこれらの要素をすべて含んだものであり、実測値と計算値との間の関係からバックグラウンド濃度を推定し、二酸化硫黄では0.002ppm、二酸化窒素では0.002ppmとした。

5. 環境基準を満足する環境保全水準の設定

二酸化硫黄については、昭和50年度から昭和53年度までの28局のデータに基づき、二酸化硫黄の日平均値の2%除外値と年平均値との間の回帰式から設定した。

二酸化窒素については、昭和50年度から昭和53年度までの21局のデータに基づき、二酸化窒素の日平均値の98%値と年平均値との間の回帰式から設定した。